

厚生会館の価値探る

八代市 市民ら見学、講演会も

建築家の故芦原義信氏が設計した八代市厚生会館の学術的価値を

探る講演会が15日、同市のやつしろハーモニーホールであり、市民ら約50人が参加した。熊本高专建築社会アザイン工学科など主催。

同館は県内初の公共ホールとして1962年、964の客席を備える本館と集會室などが入る別館が完成。今年7月、八代民俗伝統

芸能伝承館（仮称）の建設工事に伴い、別館は解体された。

講演会では同高专の森山学教授が、隣接する八代城跡を意識した設計が随所にあると紹介。時代背景にも触れ、「八代港が整備され、

新産業都市に指定された新時代のシンボリック存在だった」と語った。また屋外部分も有効に設計に利用する「外

部空間」の考え方を、積極的に取り込んでいくと説明。「厚生会館は芦原氏が提唱する外部空間の実験場だった。その理論はほかの建築物にも継承された」と強調した。

講演後、参加者は同会館（伝承館工事に伴い休館中）を見学した。（福田寿生）



故芦原義信氏が設計した八代市厚生会館を見学する参加者＝同市